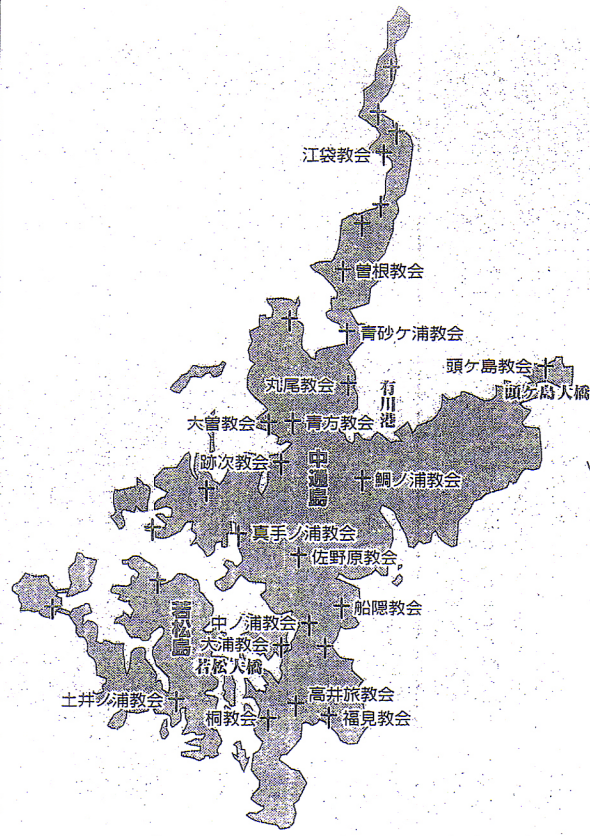


町内には二十九の教会(+)があり、名前記載の十八教会を訪ねた



### 新上五島町 上五島・長崎巡礼⑥

百四十余の島がある五島列島。その中通島、若松島の有川、上五島、若松、新魚日



奈良尾の五つの町が合併して「新上五島町」が誕生したのは二〇〇四年（H16）八月のことである。

新上五島町の面積は二百十五平方キ、山口県の宇部市より狭いが、そこに二十九もの教会がある。

今、新上五島町は「明日の世界遺産に出会う島・上五島」をキャッチフレーズに観光に力を入れている。

〇七年（H19）一月に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が世界遺産の暫定リストに掲載された。

この中に上五島の頭ヶ島（かしらがしま）教会と同じく国指定重要文化財の青砂ヶ浦（あおさがうら）教会も含まれており、県指定文化財である大曾（おおそ）教会も追加されるよう協議が進められている。

五島列島の名前の由来である五つの島に入

っている中通島と若松島は一九九一年（H3）に完成した若松大橋で陸続きとなった。ところがそれより十年も前の八一年（S56）に頭ヶ島に橋が架けられている。

二平方キにもならない小島、現在の人口は二十人にも満たない所に、大金を投じて橋を架けるのはいくら離島振興といっても不自然だと思つたら、それには大きな理由があった。

実は頭ヶ島大橋完成と同時に、頭ヶ島に「上五島空港」が開設されたのである。

今回、佐世保からフエリーで有川港に着き、最初に訪ねたのは頭ヶ島教会、その途中、上五島空港にも立ち寄つたが、滑走路も空港建物もあるが閉鎖中であつた。

調べてみると、一九八一年に開港したものの、強風などの悪天候

で欠航も多く、また着陸も難しい。何よりも利用者が少なく、二〇〇六年（H18）に休止されたのである。

新上五島町の人口は二万二千人弱、素人が考えてもこんな過疎地に空港をつくること自体、無理だとわかる。イノシシが乗客というのなら採算もとれるであろうが…。

上五島は昔から鯨のまちとして栄え、今も漁業が重要な産業、やはり島には船が似合う。

七つの有人島と六十の無人島からなる新上五島町、大部分が西海国立公園に指定され、本州では

失われた白砂の自然海浜がまたたくさん残されている。

今回一緒に旅をした近藤氏が幼少のころを過ごした上五島。当時は島内の移動は船、今は島内を道路がくまなく整備されている。今回は車で東に西に、二十九の教会のうち、十八教会を訪ねたのである。

（元山口放送取締役ラジオ局長）

